

高雄日本人学校の風

校長 高口和治

7月2日（火）

藤重先生が3時間目に6年生で算数の授業をしました。

「点対称な形を書こう」という授業でした。教科書には、例題として複雑な形のものが載っていて、子ども達に抵抗があるのではないかということで、アプローチの仕方を細かなステップを経て理解させようというものでした。次のような最初の発問でした。「点Oを対称の中心として、点Aと対応する点に宝を埋めた。どこか分かるかな？」ではじまりました。子ども達はどのように考えればいいのか、考えを出しました。先生が事前に予想した以上のものが出てきました。

次の時間も見に行きました。今度は、具体的操作とあって、紙を切ったり折ったりして事前（平面のいくつかの図形が点対称、線対称かを予想して）に予想したことを確かめていました。子ども達は、なにげなくやっていましたが、二つの新しい事柄をいっぺんに結びつけるというのは、高度な力を必要としています。

たとえば、中2で $Y = X + 2$ のグラフを習ったとします。3年生で双曲線 X^2 を習います。それぞれは単独で教えられます。この2つの式の接点はなに？と聞かれたら急に難しくなります。組み合わせると子どもたちは急にできなくなるのです。ここが、教師の力の出し所ですし、入試もこういうところをついてきます。一つ一つは理解できますが、理解をしっかりとしていないと組み合わせたときにわからなくなってしまうのです。

佐藤先生が5時間目に中2で国語の授業をしました。

小説の構造についての授業でした。題材は『走れメロス』今年、校長として、考えさせて時間ばかりかかるより、教えるところと考えさせるところを意識して分けて授業を構成するようにと指導しています。

佐藤先生は、当校の生徒の実態を「文章を深く考え自分の意見を持つことに関して苦手意識が見られる」としています。ですから、小説を読み味わうための基礎・基本的な学習内容である設定（小説の3要素 人物、背景、事件）と、クライマックスへと展開していくストーリーの流れを理解させる、ことから始めました。そのときの工夫は、佐藤先生はだれでも知っているアンパンマンの典型的なストーリー展開を例に、絵を利用して、20分ほどかけて小説の3要素をまず教えました。その後、「走れメロス」がどうなっているかを当てはめさせていきました。

次の時間は、生徒によって異なるとらえをすると予想したクライマックスについてグル

ープ学習をしていくという流れです。

前述したように、教えるところと考えさせるところが明確に出ていた授業でした。

李さんが、月曜日に中庭に七夕飾りの竹をセットしてもらいました。さっそく、小学生が学級ごとにきて願いをくくりつけていました。ちょっと、のぞき見をしました。

「およぐのがじょうずになりますように」

「おわかれした人とまたあえますように」

「大金持ちになれますように」

「やきゅうがじょうずになりたい」

「おおきくなったらおはなやさんになれますように」

「クロール100メートルをおよげるように」

「しょうらいサッカーせん手になりますように」

「大学は東大に入れますように」

「天下統一できるくらいの力がほしいです」

「ぼくとお父さんとお母さんが後100年生きれますように」

7月4日（木）

英語スピーチコンテストでした。1年生が、数ヶ月しか学習をしていないのに、準備をしたといえ、しっかりした内容で英語らしく発表していました。2年生もずいぶん成長を感じさせました。3年生にいたっては、5分以上スピーチをしっぱなしという人が何人もいました。正直3年のスピーチは私の英語力では理解できないところもありました。（原稿をもらっているのでも理解はできるのですが）ただ、話すだけでなく、内容もよく考えてありました。

7月5日（金）

小4 社会科見学（浄水場）・・・具体的にはこれを書いている時点ではどうなっているかわかりません。高雄の浄水場は日本のかなりの地域より進んでいて、オゾン殺菌をしています。水道水は圧力をかけて市内中心部に送り込んでいます。本来、飲めるはずなのですが、一般的な話では水道管がよくないといいますが、まだ、噂でしか聞いたことがありません。

政治大学大学院ドクターコース（現職の小学校教員）が比較研究で授業参観にきました。台湾と日本の教育のあり方を研究している方のようなようです。

7月のプール開放は、

7日（日） 13日（土） 21日（日） 10:00～14:00